

今週（8月17日から8月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は先週14日の年金定時払いにより増加したことで、概ね450兆円台前半で推移した。無担保コールO/N物は新積み期入りしたことで、一旦様子見姿勢となり、先週末対比でレートは低下して始まった。週初は国内勢を中心に▲0.06～▲0.04%の出会いとなった。週半ばから後半にかけては、地銀業態を中心に取り上がる動きが見られ、週末21日は▲0.035～▲0.03%の出会いとなった。この他、複数の先から試し取りが行われたことも影響し、週を通して加重平均レートは上昇する展開となった。ターム物は、地銀業態を中心に運用ニーズが減退していることで、オファーが少なく、ショートタームで▲0.03%台の出会いが数件見られた程度であった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは21日に2W物・20,000億円がオファーされ、2,802億円（期落ち額2,851億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.080～▲0.065%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～144、10年340～359、20年170～173、30年60～67、40年9～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は買入オペによって需給がやや改善したこともあり、3M物は▲0.100～▲0.088%、6M物は▲0.146～▲0.133%出会いと堅調な推移となった。しかし、週後半は、26日の短国買入オペまでに3回の入札をこなすことへの警戒感からか、1Y物は▲0.152～▲0.133%での出会いと、軟調に推移する展開となった。

18日に実施された短国買入オペは、2兆5,000億円でオファーされた。ほぼ市場予想通りのオファー額であったことから、平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.005%と、無難な結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において、▲0.152～▲0.144%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1417%、按分落札利回▲0.1308%と、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリマーケットでは、▲0.136～▲0.133%出会いと、やや堅調に推移した。

21日に実施された3M物の入札は、WI取引において、▲0.085～▲0.080%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0829%、按分落札利回▲0.0753%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリマーケットでは、▲0.086～▲0.084%出会いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は一般事業人の夏季休暇が明けたことで、幅広い業態における発行が期待されたが、償還総額3,000億円程度に対して発行総額は5,000億円となった。新型コロナウイルスに対する予防的な資金調達がひとまず一服しているためか、発行超ではあるものの、落ち着いた発行量にとどまった。

18日にはCP等買入オペが6,000億円オファーされた。市場残高は引き続き高水準ではあるものの、夏季休暇により発行が減少していたため、前回比でやや低下することが予想される中、入札結果は平均落札レート▲0.017%・全取レート▲0.058%と、前回（平均▲0.002%・按分▲0.005%）比で大きく低下する結果となった。オファー額6,000億円に対して、応札額は5,452億円・落札額は5,392億円と未達となった（応札額がオファー額に満たなかったのは14年6月以来。16年3月の際は、応札額自体はオファー額を超えていたものの、入札レート▲0.598%を下限としたことで落札額が札割れとなった）。予想以上に業者の売りニーズが弱かったことが色濃く反映された。また、応札レート▲0.099%以下は不採用とされた。実勢から大きく外れていたためと考えられる。

発行レートについては、先週に引き続き浅いマイナスレートで推移していたものの、次回以降へのオペレート低下の期待感からか、18日の買入オペ後は▲0.01%を下回るなど、明確に低下する展開となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/17（月）	23,096.75	0.040	106.53	△ 0.052	△ 0.072	4,518,200
8/18（火）	23,051.08	0.035	105.75	△ 0.045	△ 0.080	4,519,800
8/19（水）	23,110.61	0.025	105.20	△ 0.040	△ 0.070	4,535,400
8/20（木）	22,880.62	0.025	106.09	△ 0.039	△ 0.074	4,524,500
8/21（金）	22,920.30	0.030	105.67	△ 0.037	△ 0.070	4,514,000

来週（8月24日から8月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/24 (月)		TB6M 34,000億円 8/25発行			
8/25 (火)		20Y 12,000億円 8/26発行	交付税借入 10,000億円 9/2借入		6月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 7月の米新築一戸建て販売件数 8月の米CB消費者信頼感指数
8/26 (水)	7月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 6月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				7月の米耐久財新規受注
8/27 (木)	月例経済報告(内閣府)	2Y 30,000億円 9/1発行	交付税借入 10,000億円 9/4借入		4-6月期の米GDP改定値
8/28 (金)	8月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 75,500億円 8/31発行			7月の米個人所得・消費支出

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/24 (月)	300	▲ 12,200	▲ 11,900	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 2,900 ▲ 300 100	8,800 2,800 300	8,800	▲ 3,100	TB3M発行▲75500償還60700
8/25 (火)	0	▲ 32,000	▲ 32,000	社債買入		2,000	2,000	▲ 30,000	TB6M発行▲34000 国有林野借入▲1000期日1000
8/26 (水)	0	▲ 14,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	20Y発行▲12000
8/27 (木)	0	1,000	1,000	新型コロナ支援	▲ 17,300		▲ 17,300	▲ 16,300	
8/28 (金)	▲ 1,000	6,000	5,000	国債売現先(米ドル) CP買入	900	6,000	6,900	11,900	流動性供給発行▲5000
週間合計	▲ 700	▲ 51,200	▲ 51,900	—	▲ 19,500	19,900	400	▲ 51,500	

8/24は日銀予想、8/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き地銀業態の調達がしっかりしていると見られることから、無担保コールO/N物は0.04～▲0.03%台の出合いが中心になると予想される。また、26日には新型コロナオペがオファーされる予定になっている。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きGC O/N物のレートは▲0.080～▲0.065%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、24日に6M物の入札、28日に3M物の入札が実施予定となっている。短国全体の需給や26日の買入オペのオファー額など、市場動向が注目される。CP市場は、26日にCP等買入オペが6,000億円予定されている。先月とはオペ日程が異なっており、月末発行に対しての在庫入替が行えるため、18日の結果から大きく低下することはないと予想されるが、ある程度低下する可能性は十分に考えられる。また、月末の発行がどれほど出てくるかが注目される。

主要なイベントは、27日に4-6月期の米国GDP改定値などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入